

二〇一六年度

一般公募推薦入学試験

## 【適性検査】

### 「国語」問題

1. 問題および解答用紙は試験開始の合図があるまで開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 受験番号および氏名は解答用紙の所定の欄に記入してください。
4. 試験終了後、解答用紙を問題の上にふせて置いてください。
5. 回収するのは解答用紙だけです。問題は持ち帰ってください。
6. 「国語」の問題は1ページから5ページまでです。

1 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

「論理」とは何だろうか。

ひとことでは、「論理」とは、言葉が相互にもっている関連性にほかならない。しかし、そのことの説明を続ける前に、まずは論理に対するひとつの一般的な誤解を解いておこう。

一般に、論理力というのはすなわち思考力だと思われているのではないだろうか。「論理的思考力」とか「ロジカル・シンキング」といった言葉がよく聞かれるように、論理とは思考に関わる力だと思われがちである。だが、そこには誤解がある。論理的な作業が思考をうまく進めるのに役立つというのはたしかだが、論理力は思考力そのものではない。

(2) 思考は、けっきょくのところ最後は「ひらめき」(飛躍)に行き着く。そのために、グループで自由にアイデアを出し合う、いわゆるブレン・ストーミングなどを行ったりもする。そしてブレン・ストーミングなどでは、論理的に一貫した発言をすることよりも、可能なかぎり自由に発想していくことの方が有効なものとなる。思考の本質はむしろ飛躍と自由であり、そしてそれは論理の役目ではない。

論理は、むしろひらめきを得たあとに必要となる。ひらめきによって得た結論を、誰にでも納得できるように、そしてはやひらめきを必要としないような、できるかぎり飛躍のない形で、再構成しなければならない。なぜそのような結論に到達したのか。それをまだその結論に到達していない人に向かって説明しなければならないのである。

ここで重要なのは、あなたがその結論に到達した実際の筋道ではない。実際の思考の筋道は、すでに述べたように、最終的なひらめきに至った紆余曲折のある道だろう。苦勞話をするというのでもないかぎり、それをそのままアピールしても意味はない。どういう前提から、どういう理由で、どのような結論が導けるのか。そしてそれ以外の結論はどうして導けそうにないのか。そうしたことを、論理的に再構成して説明するのである。

たとえば、数学の証明などもっとも厳格な論理を展開するものと言えるが、数学者が実際に数学の証明のとおり筋道で考えたなどということはありえない。さまざまな飛躍を含みつつ為された思考を、飛躍を許さない形で新たに書き直したもの、それが証明にほかならない。

繰り返そう。思考の筋道をそのまま表すのではない。思考の結果を、できるかぎり一貫した、飛躍の少ない、理解しやすい形で表現する。そこに論理が働く。

さらに、そのように表現されたものをきちんと読み解かねばならない。その結論はどのような根拠から導かれているのか。その根拠は結論を導くのに十分強いものであるのか。あるいは、議論全体の方向や筋道はどうなっているのか。そうしたことを的確に読み取

り、理解し、また評価する。<sup>(4)</sup>それもまた、論理である。

それゆえ、論理力とは、思考力のような新しいものを生み出す力ではなく、考えをきちんと伝える力であり、伝えられたものをきちんと受け取る力にほかならない。つまり、<sup>(5)</sup>論理力とはコミュニケーションのための技術、それゆえ言語的能力のひとつであり、「読み書き」の力なのである。

より詳しく言えば、論理力とは、さまざまな言語的能力の中でも、とりわけ言葉と言葉の関係——ある言葉と他の言葉がどういう仕方につながりあっているのか——それをとらせる力である。典型的には、根拠と結論をつないでいく力、すなわち論証を読み解き、自ら組み立てる力であるが、それだけではない。人の話を聞いて、さっきの話といまの話はどう関係するのか、それを把握する力も、論理力である。そしてまた、論文や報告書、あるいは一冊の本全体の中で、その部分はどういう位置づけを与えられているのか、そうした全体と部分の関係をとらえるのも、論理の力にほかならない。

逆に、「論理的ではない」とは、個々の主張をそれだけ取り出して考え、それらの主張の間の関係をとらえようとしめない態度である。すなわち、言葉を断片的にしかとらえられず、主張相互の関係をとらえることができないとき、その人は「非論理的」と言われてしまうことになる。

(野矢茂樹『新版論理トレーニング』より)

問1 —— 線部(1)「誤解」とありますが、どのような誤解ですか。  に当てはまる言葉を考え、十字以内で答えなさい。

という誤解

問2 —— 線部(2)「思考」とはどのようなものですか。最も適当なものを次の中から選

び、記号で答えなさい。

ア 思考とは自由に発想することに本質がある。

イ 思考とは結論にいたった筋道のことである。

ウ 思考とは論理をうまく進めるためのものである。

エ 思考とは論理的な発想のことである。

問3 — 線部(3)「再構成して説明する」ことの必要性について、次のようにまとめました。

I

III

に当てはまる語句を本文中より抜き出して答えなさい。

I (四字)

によって得られた結論は、

II (二字)

や紆余曲折のあることが多く、

誰にでも納得できるとは限らない。したがって、思考を論理によって  
にすることが必要なのである。

問4 — 線部(4)「それもまた、論理である」の内容を説明したものとして、最も適当

なものの中より選び、記号で答えなさい。

ア 議論をまとめ上げるときにも論理が必要である。

イ 思考をアピールするときにも論理が必要である。

ウ 数学の証明を展開するときにも論理が必要である。

エ 表現されたものを読み解くときにも論理が必要である。

問5 — 線部(5)「論理力とはコミュニケーションのための技術」とありますが、「論理

力」が「コミュニケーションのための技術」と言える理由を次のようにまとめました。

IV

・

V

に当てはまる語句を本文中より抜き出して答えなさい。

論理力とは、自分や他人の主張それだけを取り出して考えるのではなく、言葉と言葉のつながりや主張相互の

IV (二字)

をとらえるための

V (五字)

だから

問6 本文の主題として最も適当なものを次の中より選び、記号で答えなさい。

ア 論理力とは、思考力とは異なる能力である。

イ 論理力とは、思考の結果を分かりやすい表現にする能力である。

ウ 論理力とは、考えを的確に伝達しかつ受け取る能力である。

エ 論理力とは、断片的な個々の主張の関係をとらえる能力である。

2 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

関取谷風梶之助、小相撲を供に連れ日本橋本船町を通りける時、鰹<sup>かつを</sup>を買はんとしけるに値<sup>(1)</sup>いと高かりければ、供の者に言ひつけてまけよと言はせて行き過ぎしを、魚売る男呼び留めて、関取のまけると言ふは忌むべきことなり。】と言ひければ、谷風立かへり買へ買へと言ひて買はせたるもをかしかりき。これは谷風のまくるにあらざ、魚売る男の方をまけさすることなれば、さのみ忌むべきことにはあらざるを、買へ買へと言ひしはちとせき<sup>(2)</sup>こみしと見えたり。これは予が若かりし時目の当たり見たることなりき。<sup>(3)</sup>

(『仮名世説』より)

問1 ——線部(1)「いと高かりければ」とありますが、現代語訳として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア たいそう高かったので
- イ とても高かったのだが
- ウ 意外と高かったものの
- エ それほど高くはなかったが

問2 ——は会話部分の終わりを示していますが、この会話文の始めはどこですか。最初の三文字を答えなさい。

問3 ——線部(2)「さのみ忌むべきことにはあらざるを」(それほど嫌うべきことではないのだが)とありますが、これは誰の判断ですか。次の中から適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 谷風
- イ 小相撲
- ウ 魚屋
- エ 予

問4 ——線部(3)「ちとせきこみしと見えたり」とありますが、現代語訳として適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

- ア 一見咳き込むように思われた
- イ いささか焦<sup>あせ</sup>ってしまったようだ
- ウ 思いのほか有頂天になっていた
- エ 千年に一度の不覚といえよう

**問5** 本文の内容と合致しないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 谷風は鰹を購入するにあたり小相撲に値切り交渉をさせた。
- イ 魚屋は「まける」という言葉は相撲取りにとって忌み嫌うことばだと言いつた。
- ウ 谷風は結局魚屋の言う通りの値段で鰹を購入させた。
- エ 谷風は、鰹を値切るのは魚屋をまけさせるのだから魚屋の指摘はあたらなと考えている。

(以下余白)

